

## 明細行のあるノーツ・フォームを Cuber で取り込む方法

### 【明細行が弱いノーツフォーム】

ノーツフォームで作りにくい書式の中に「明細行」付フォームがあります。通常の見積書、請求書など、書式に鑑の部分と明細行部分のあるフォームはビジネスで多く利用されていますが、ノーツでは明細行の中のセルひとつひとつに、ユニークな名前のついたフィールドを作成してゆかなければなりません。このため、通常のビューに個別のフィールドを対応させる方法ではうまくいかない経験をお持ちではありませんか？

### 【今からでも遅くはないビューの改造】

Cuber ではビュー上で簡単な式を埋め込んでいただくことで、問題に対応しています。これにより、既存のノーツで作成した申請書 DBなどを、フォームの設計を変えてから文書の再保存をすることなく Cuber で分析することができます。

それではサンプル DB を使って、そのやり方を見てみましょう。

### 【手順 1: ビューの設計変更】

ビューを明細行データの複数行の値が格納可能なリスト形式につなげます。デザイナーでビューを開き、列の式を入れます。利用する関数は@Trim 関数で、数値フィールドのものは@Text関数でフィールドを文字化し、そのうえで@Trim関数を利用してつなげます。日付フィールドのものは数値フィールドと同じく、いったん文字化し、@Trim関数でつなげた後で@TextToTime 関数を使って日付フィールドの意味を持たせます。このとき、列のプロパティの「複数値の分離記号」は「改行」を選択するとよいでしょう。

デザイナーでビューを開いて、ビューのプロパティの「行の高さ」をフォーム上の明細行の数にあわせませます。(ただしノーツの制限事項で9までしか表示できません。)また、「行の高さを内容に合わせる」にチェックを入れるとビューが見やすくなります。列のプロパティだけ式を追加して、ビューのプロパティ変更はしなくても、Cuber でデータを読むのには問題ありません。

### 【手順 2: Cuber の設定】

ナビゲーターのシステム管理の中にある、「キューバーを実行」で Cuber を起動します。新規作成からタスク名を決め、ターゲット DB とビューを決めます。その後キューブでの使用値を決め、XYZ 次元に当てはめる項目を次元リストから、選択します。サンプル DB では以下のように設定してみてください。設定したら終了ボタンを押し、タスク実行ボタンを押してください。

タスク名:	Multidate
データベース:	CuberSource0823.nsf
ビュー:	1.メイン
キューブ名:	複数データ
キューブでの使用値:	製品単価(複数可)
ドリル設定:	合計
X 次元:	日付
ドリル設定した Y:	製品グループ、担当部門
Y 次元:	製品名(複数可)

データ行を含む行のみ表示

Z 次元: なし

**【手順 3: デフォルトの表で表示】**

「キューブを見る」で KAS を起動させ、上部の「キューブを変更」ボタンを押して、手順 2 で作成したキューブ名「複数データ」を選択します。必要に応じてグラフ化します。

このように明細行の入ったフォームのデータもグラフ化できます。

